

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成27年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立幸手桜高等学校	Aグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	総合学科の趣旨や特性を踏まえ、学校として目指す方向が端的に表現されている学校像である。生徒の実態や学校の現状に応じた適切なものであり、学校に寄せられる保護者などの期待に応えるものとなっている。
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	前年度の重点目標を見直し、学校の取り組むべき方向が新たに四つの柱として設定されている。広報活動の充実や地域との一層の連携、部活動の活性化を図るなど、学校の取り組むべき課題が明確に示されている。
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	企画委員会と分掌・委員会等が連携し、学校自己評価システムが運営されている。学校が重点的に取り組んでいる具体的な方策を推進する組織が委員会である場合にあっては、その委員会の活動が見えてくるような学校自己評価システムシートになるように工夫をしていただきたい。
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	重点目標達成のため、分掌・年次等のシートが作成されている。必ずしも方策が十分に具体的なものとは言えず、評価指標も達成度が評価できるものとなっていないので、いつまでに何をするのかを明確にするとともに、目指すところが分かる評価指標を設定することが望まれる。
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	学校全体で、2年次全員対象のインターンシップ、放課後の補習や3年間を見通した進路指導などの取組が行われている。校長の的確なリーダーシップの下、重点目標の達成のために学校全体としてより具体的な方策に組織的に取り組むことが期待される。
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	学校評価アンケートなどを実施し、学校自己評価のための情報が収集されている。アンケートなどについて、関連する分掌組織で分析・検討して改善方策を策定するなど、その結果等を有効に活用し、より組織的なPDCAサイクルを確立していただきたい。
特記事項		